あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.181　2012.7.1

山と自然博物館　開館5周年記念特別展

城山の自然と歴史

山と自然博物館は、今年で開館5周年を迎えました。
岳都松本を象徴する北アルプスを眺めながら、
自然豊かな松本を、改めて感じてみてはいかがでしょうか！

平成24年 7月14日土 ▸ 9月2日日

オオムラサキ（タテハチョウ科）

アズマイチゲ（キンポウゲ科）

城山丘陵

もくじ

◇誌上博物館◇
山と自然博物館 開館5周年記念特別展「城山の自然と歴史」‥ 2
松本民芸館開館50周年記念展 …… 3
時計博物館開館10周年によせて …… 4
企画展「松本高等学校陸上競技部・アルペン倶楽部資料展」‥ 5
特別展「松本の七夕2012」によせて～ケガレをはらう人形の系譜～ ‥ 6
企画展「戦争と平和ー松本に来た特攻隊ー」にみる人々の流れ … 7
◇松本まるごと博物館連携事業◇ …… 8
◇ガイドコーナーはんてんぼく◇ …… 8

山と自然博物館 Tel.0263-38-0012

山と自然博物館開館5周年記念特別展「城山の自然と歴史」

山と自然博物館は今年で開館５周年を迎えました。これを記念して、博物館が立地する城山丘陵一帯の自然や歴史を紹介する特別展を開催します。

展示内容

城山丘陵は、里山から都市公園へと変貌をとげてきましたが、まだまだ豊かな自然が残されています。

本展示では、城山の自然や歴史を４つのテーマに分けて紹介します。

1 城山の歴史

アルプス公園の前身の長野県種蓄場時代から、昭和50年（1975）のアルプス公園の開園、翌年のアルプス山岳館の開館などを写真で紹介します。

2 城山の生態系

雑木林では動物・植物・昆虫などがお互い深い関わりをもって生きています。このコーナーでは、城山の生きものたちの関係や、人が自然に与える影響などをイラストを中心に紹介します。

3 城山の動植物

城山丘陵で観察される哺乳類・鳥類・昆虫類などの剥製・標本と、樹木の一部や草花の標本など、城山の生きものたちを紹介します。

4 城山の歴史文化

城山丘陵はかつて身近な里山として、桑畑をつくって養蚕を営んだり、炭焼きが行われるなど、人の暮らしに密接に関わる場所でした。

本コーナーでは、薪炭づくりや養蚕などの人と自然のかかわりを紹介します。

城山丘陵

関連事業

山と自然博物館では、特別展に合わせて様々なイベントを行います。

公園内を歩いてクイズに答えるアルプス公園ウォークラリー、公園の昆虫や植物を観察する夏の野外観察会、アルプス公園トレッキングなどを行います。これらを通して身近な自然を知る機会にしてもらえばと思います。

春の野外観察会

伝説の巨人『デーラボッチ』

山と自然博物館では開館５周年を記念してオリジナルキャラクター「デーラボッチ」の着ぐるみを作成しました。

デーラボッチは日本の各地で言い伝えられる巨人で、松本地域ではディラボッチャ、デラボッチャとも呼ばれています。博物館のデーラボッチは、そんな伝説の巨人をイメージしたものです。身体が巨大で、昼間は動かず山の形になって隠れていますが、夜になると動き出し、山を削ったり谷を埋めたりして松本平の地形を作ったといわれています。

デーラボッチと子どもたち

（山と自然博物館 学芸員／山下太一）

山と自然博物館開館5周年記念特別展「城山の自然と歴史」

平成24年7月14日㈯～9月2日㈰

松本民芸館開館50周年記念展

松本民芸館が開館して50周年を迎えました。

今年度は、これを記念して企画展・特別展を通年で開催しています。ここでは、民芸館を創設した丸山太郎とはどんな人物であったかを、民芸館の50年の歩みとともに紹介します。また、50周年記念展も紹介してまいります。

1 丸山太郎と民芸館50年の歩み

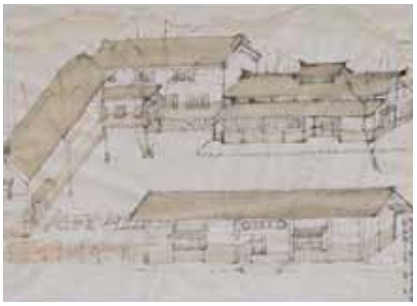
丸山太郎は、明治42年(1909)に松本市中町の紙問屋「ちきりや」で、8人兄弟の長男として生まれました。小さい頃から盆栽や骨董品、根付などを趣味にしていて、子どもらしくない子どもだったようです。小学校の同級生には、後に長野県の民芸運動の中心的な役割をともに担う三代澤本寿、池田三四郎、柳澤静子がいました。

旧制松本中学を卒業し、父親の元で紙問屋を手伝っていました。昭和11年(1936)、27才のときに、柳宗悦が東京駒場に日本民藝館を開館したとの時事新報の記事を目にして上京し、日本民藝館を訪ねました。そこに展示されていた身近にある古徳利やソバ猪口の美しさに深い感銘を受けます。丸山太郎の歩む道が決まった瞬間でした。

38才で代々続いていた紙問屋を閉じ「ちきりや工芸店」を開店します。昭和30年の初冬、46才の時、長女を亡くす不幸に見舞われ、世の無常を知り床に伏していた太郎のもとを柳宗悦が訪れて、書軸『蕗ノタウホヽエム雪ニモメゲデ』を送りなぐさめ励ましました。これにより太郎は民芸品の美にふれる喜びを取り戻し、この時に民芸館を建てる決心をしています。

昭和37年11月3日、53才のとき松本民芸館を開館しました。開館について太郎は「松本民芸館は、民芸に深い理解をもっている人たちでなく、民芸の意味さえも知らぬ地方の人たち、郷土の人たちに見ていただくことが、最大の目的である。見るといってもただ見ることではなく、そこから何かを汲み取っていただきたいのである」と記しています。

昭和58年、「より多くの人々に生活に息づいた民芸品の美しさを知ってほしい」との思いから、松本民芸館の土地・建物・収蔵品の全てを松本市に寄贈しました。寄贈の心境を柳宗悦のことば『花散りぬ、ただ散りぬ、こともなし』を引用し、「寄附といってもどうという事はない」と笑って答えた、と当時の新聞は伝えています。



民芸館の完成予想図 丸山太郎画

植樹した頃の民芸館と丸山太郎氏(昭和40年代初め)

76才で亡くなるまで、民芸の精神と民芸品を愛した人生でした。晩年には人生を振り返り、「民芸の美を知る機縁により、計り知れない喜びの中で日々の生活を送っている」、「身ハ現世ニツナガレナガラ心ハ浄土ニ遊ブ…大変ありがたいことだ」と記しています。

2 50周年記念展

本年度を通して「50年の歩みと丸山太郎のこころざし」展を開催しています。パネルや写真のほか、開館当時の太郎の展示を再現しました。また、年4回の企画展・特別展を予定しており、現在は企画展「美しいものが美しい」を開催中です。

この展示では、太郎自身が製作した卵殻(らんかく)細工、螺鈿(らでん)細工、絵文字、版画、絵本など約80点を展示しています。

螺鈿貼文庫　丸山太郎作

また、7月31日～9月30日には特別展『丸山太郎と民藝の巨匠たち』を開催します。この特別展では、太郎が人生の師と仰ぎ、日本の民藝運動のリーダーであった柳宗悦、河井寛次郎、浜田庄司、バーナード・リーチ、棟方志功などの作品や、円空仏・木喰仏など松本ではなかなか見ることのできない作品を展示します。さらに秋から来春にかけては、太郎が特に好んだ李朝と沖縄の民芸品を展示する『民藝のふるさと李朝(りちょう)展』、『沖縄に咲いた民藝』の2つの企画展を計画しています。

丸山太郎のこころざしにふれていただけるよう、大勢の皆様にご来館いただきたいと思います。

(松本民芸館 館長／丸山廣登)

『50年の歩みと丸山太郎のこころざし』
…… 4月24日㊋～(H25)2月24日㊐
『美しいものが美しい』…… 4月24日㊋～7月29日㊐
『丸山太郎と民藝の巨匠たち』…… 7月31日㊋～9月30日㊐
『民藝のふるさと李朝展』…… 10月2日㊋～12月9日㊐
『沖縄に咲いた民藝』…… 12月11日㊋～(H25)2月24日㊐

松本市立時計博物館 Tel.0263-36-0969

時計博物館開館10周年によせて

はじめに

松本市時計博物館は、平成24年9月1日に開館10周年を迎えます。時計博物館ではこれを記念して特別展「時の蒐集者（しゅうしゅうしゃ）」を開催します。当館の中核をなす本田コレクション、色彩の魔術師とも呼ばれる写真家・緑川洋一氏の蒐集した古時計コレクション、近江神宮の時計宝物館コレクションから“歴史”と“時”を刻んできた古時計を一堂に会して紹介します。

本稿では、特別展「時の蒐集者」をより楽しんでいただくため、時計博物館10年の歩みをふりかえってみたいと思います。

1 時計博物館の収蔵資料と展示

① 収蔵資料

時計博物館収蔵資料の中核をなす本田コレクションは、16世紀から20世紀初頭にかけての日本や西洋の古時計とその関連資料群です。その総数は約350点を数えます。このコレクションは諏訪市に在住された本田親蔵氏（明治29年～昭和60年）が、若いころから長年にわたり蒐集し、松本市へ寄贈したものです。このコレクションに時計博物館が10年間に蒐集した資料を加え、現在では500点をこえる資料を収蔵しています。時計に関する資料群の充実はもちろんですが、ほとんどの時計が可動状態で整備・収蔵されていることが大きな特徴です。

② 展示

常設展には約110点の時計が、できる限り動いた状態で展示されています。これが時計博物館の大きな特徴である動態展示です。時計を動く状態で長期にわたって保存していくことは簡単ではありません。動態展示を支えるのは、松本の時計技師の皆さんです。

技師の皆さんには、毎日の時刻合わせやネジ巻き、高度な技術と熟練性が必要不可欠な古時計の修理・点検などをしていただいています。時計技師の皆さんがいなければ時計博物館は成り立たないといっても過言ではありません。

2 講座やイベント

博物館を活用し、地域の振興に寄与することが、開館当初の目標として掲げられています。時の記念日やあめ市を紹介する企画展、時計作り講座などを開催することによって、本町ルネサンス倶楽部の連携を強めていく活動をつづけています。

開館当初から続いているイベントとして、保育園・幼稚園対象の古時計説明会があります。この説明会は、園児達に時と時計について関心を高めてもらうため、古時計を実際に動かしながら時計技師による説明を聞いてもらうというものです。説明会を子ども達が楽しんでいるのはもちろんですが、説明会の後日、子ども達は「小さな学芸員」として博物館へ来館してくれます。自分達が説明してもらったことをなぞるように家族へ説明している姿はとても微笑ましいものです。こういった子ども達が、松本の文化・歴史が刻む音色を未来へ響かせることになるのではないでしょうか。

夏休み時計作り講座（平成22年）
おもりを動力とする初期の機械時計をつくる講座です。

保育園・幼稚園古時計説明会（平成23年）
毎年6月10日の時の記念日の前後に開催しています。
今年は45園から約2,000人が参加しました。

むすびに

10周年という節目を迎える時計博物館。地域の皆さんをはじめ、多くの方に支えられての10年であったと思います。この10年という節目をスタートラインとして、多くの方に愛される博物館活動を続けていきたいと思います。

（松本市時計博物館 学芸員／一ノ瀬幸治）

時の記念日特別企画

時の記念日特別企画として「時の鐘…大切なとき!!」を実施しました。

この催しは「時の大切さ」を多くの皆さんに再認識していただくため、時の記念日(6月10日)に時を告げる鐘を撞いたものです。今年は、松本・大町・塩尻・安曇野市、東筑摩郡・北安曇郡の町村の34寺院のご協力により広い地域で時の鐘を響かせることが出来ました。ご協力いただいた寺院へ感謝申し上げます。

ご協力いただいた寺院

[明け方]午前5時・[夕方]午後6時
恭倹寺／高松寺／広沢寺／牛伏寺／自性院／常楽寺
神宮寺／桃昌寺／法船寺／常光寺／一乗寺／龍門寺
清水寺／成就院／照明寺／長谷寺

[明け方]午前5時
正覚院／無量寺／天正寺／古川寺

[夕方]午後6時
安養寺／広田寺／極楽寺／松岳寺／徳運寺／宝輪寺
無極寺／蓮華寺／興竜寺／長泉寺／宗徳寺／長性院
善導寺／浄念寺

時計博物館 開館10周年記念事業特別展「時の蒐集者」

［会　場］松本市時計博物館
［期　間］7月28日(土)～9月2日(日)月曜休館
［観覧料］大人300円、小・中学生150円
［開館時間］午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
8月13日(月)～8月16日(木)は午前8時～午後5時

旧制高等学校記念館 Tel.0263-35-6226

企画展「松本高等学校陸上競技部・アルペン倶楽部資料展」

青春にはスポーツがよく似合います。松本高等学校（以下「松高」）の生徒たちも、その多くが運動部に入部して心身を鍛え、技を磨き、母校の名誉をかけて対抗戦を戦いました。本展では松高陸上競技部と、そのOBなどによる親睦団体アルペン倶楽部(くらぶ)の歩みを紹介します。

松高が開校した大正8年(1919) 9月、1回生のうち数名が陸上競技を始め、現在のあがたの森に校舎が竣工した翌9年9月頃には「競走部」が創設され、正式な校友会活動となりました。

グラウンドの造成から取り組んだ部員の努力が実り、昭和3年の第3回インターハイでは早くも総合優勝を果たし、6年にも同大会フィールドの部で優勝しています。

対立教大学戦(大正12年)の100m走ゴール。白のユニフォーム3人が松高の選手。

松高陸上競技部のシンボルともいえるのが、名物教授の蛭(ヒル)さんこと数学の蛭川幸茂教授です。同教授は大正15年22歳の若さで松高へ着任すると同時に、陸上競技部の指導にあたります。以後「陸上競技部小使(こづけー)」(自称)としてパンツ一丁でグラウンドに立ち、部員のみならず多くの松高生に慕われ「蛭さんの息子になりたい」と言う生徒もいたそうです。

戦中の困難な時期を経て、昭和25年3月の松高廃校とともに陸上競技部は消滅しますが、昭和3年に発足したアルペン倶楽部は、京都の三高白銀会との定期戦を行うなど、平成22年に解散を迎えるまで活動が続きました。

このように松高と共に生まれ、躍動し、消えて行った陸上競技部の歩みを振り返ることは、そのまま松高の歴史を振り返ることになります。陸上競技に寄せた学生・関係者の熱い思いの一端をご紹介できれば幸いです。

(旧制高等学校記念館 学芸員／臼井邦彦)

企画展「松本高等学校陸上競技部・アルペン倶楽部資料展」

平成24年7月14日㊏～10月8日㊊㊗

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

特別展「松本の七夕2012」によせて～ケガレをはらう人形の系譜～

1 はじめに

松本地方の七夕行事は、月遅れの8月7日に行われ、七夕人形を飾り、季節の野菜を供え、ホウトウという幅広な麺に黄粉や餡をからめた行事食を供えて食べるという、極めて特徴的な地域色が見られます。松本市立博物館には、国重要有形民俗文化財に指定されている45点の七夕人形コレクションが収蔵されています。これらの七夕人形については、まつりの形態や、人形に込める人々の願いから、2つの系譜があると指摘されてきました。1つは、着物を飾るために作られた人形、もう1つは穢れをはらう人がたの意味合いが強いものです。着物を飾る人形については、当館で平成17年度に実施した特別展「七夕と人形」において、全国各地に残る事例が紹介され、その系譜が江戸時代から続く「貸し小袖」の習慣に関連するものとの指摘がなされました。現在でも、松本地方の着物をかける人形には、「着物を着せてもっといい着物が返ってきますように」「子供が丈夫に育ちますように」というような願いが掛けられています。

もう1つの人がた形式の七夕人形については、残された資料も少なく、その実態はなかなか判然としません。こうした中、今回の特別展では、発掘調査で出土した人形代の資料などを紹介し、その系譜を考えてみました。

2 穢れをはらう人形（ひとがた）

松本地方にみられる七夕人形は、①人がた形式、②着物掛け形式、③紙雛形式、④流し雛形式の4つの形態に分類されています。これらのうち、人がた形式と流し雛形式の七夕人形は、穢れをはらう人形としての意味合いが強いものです。当館が所蔵する人がた形式の七夕人形は、紙を切って作った衣に身の穢れを移し、毎年人形に貼り重ねていくものです。人形部分は木製で、男性が角柱形、女性は板材で、それぞれ顔が描かれています。この形式は、旧城下町を中心にみられ、江戸～明治時代にかけて作られていたものです。

流し雛形式は、3月のひな祭りの流し雛に類似するもので、身の穢れを人形に移し、川に流して祓うものです。こうした流し雛形式は、昭和20年代後半までつくられていましたが、今日では姿を消しています。

人がた形式

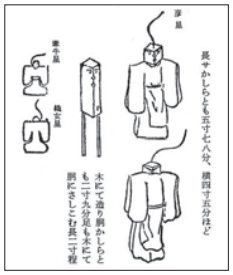
流し雛形式

3 古代の人形代（ひとかたしろ）

こうした自分の穢れを、人形に移して川に流すという習慣は、すでに古代から行われていました。奈良・平城京などでは、人間の形をした木板製の人形が大量に出土しています。古代の人々は、病や穢れがついた場合に人形代を作成し、それに自分の穢れや病を移して川へ流すことで、自らの清浄を信じて実施していました。人形代のまじないの方法は、「一撫一吻」と呼ばれ、1回撫でると自分の体についた穢れが全て人形代に移り、1回口づけすると自分の体内にある穢れた息や病が全て人がたに移ると考えられていました。人がたという第二の私に、穢れや病をおっかぶせて川へ流し、自らを清めたのです。特に奈良時代には、6月と12月に多くの人々が人形代を流したようです。国で最も神聖な人物である天皇は、年間1,884枚もの人がたを作成し、常に清浄な身で国が乱れないよう、まじないが行われていました。

4 戦国から江戸時代の人形代出土事例

戦国末期の大坂城からは、木製の角柱形をした人形代が大量に出土しています。その容姿は、烏帽子を被った男性とわかるものと、そうでないもの（おそらく女性か?）がみられます。これと全く同様のものが戦国末期の松本城においても出土しています。こうした角柱形の人形代は、『於路加於比』（1804）にみられる江戸時代の七夕人形の形態や、江戸期の松本城下町で出土した七夕人形に非常に良く似ています。


『於路加於比』の七夕人形

松本城出土の人形代

5 おわりに

特別展では、ここで紹介した資料も含め、江戸時代の加賀藩や山梨県内の七夕の様子を記した資料などから、時代や地域で異なる七夕も紹介します。人形代や七夕人形に込めた、人々の願いや想いにも想像を膨らませ、今年は皆さんも七夕のまつりを行ってみてはいかがでしょうか。

（松本市立博物館 学芸員／竹内靖長）

［第1期展示］テーマ展示「七夕人形をつくる～その製作工程～」
［第2期展示］特別展「松本の七夕2012～人形を飾る風物詩～」

［第1期］平成24年7月7日㈯～9月2日㈰　［第2期］平成24年8月4日㈯～9月2日㈰

企画展「戦争と平和－松本に来た特攻隊－」にみる人々の流れ

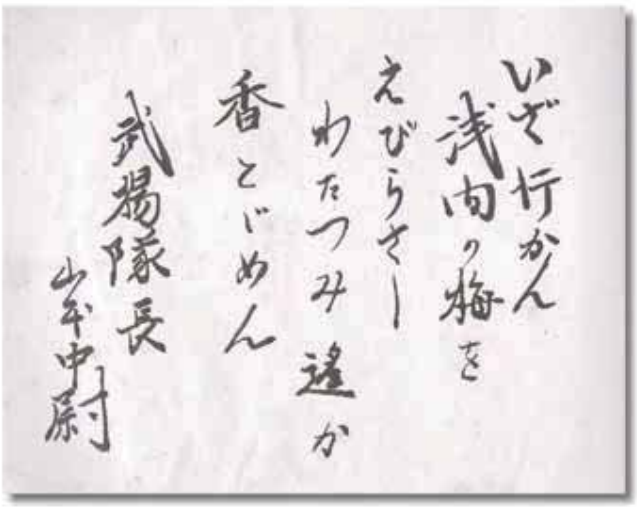
昨年、国連軍縮会議が松本市で開催されたことを記念してはじめた、まるごと博物館連携企画展「戦争と平和」は今年で2年目を迎えます。今回、市立博物館では太平洋戦争中の松本の一コマとして、松本に滞在していた人たちの眼から見た戦時中の松本の様子、松本に来た「特攻隊」や松本にいた「疎開学童」などの人々の流れを紹介する展示を考えています。

特攻隊はすでに有名ですが、正式には、太平洋戦争(1941～1945)末期の昭和19年(1944)10月から旧日本軍が編成し、爆弾を積んだ航空機などを敵艦に体当たり攻撃をさせた「特別攻撃隊」の略語です。つまり、生還することを求められていなかった特別任務を負った兵士たちのことです。

あまり知られていないようですが、一部の特攻兵たちが沖縄戦に出撃する航空機の機体整備を待つ間、松本に滞在していました。なかには、辞世の遺墨を滞在中にお世話になった人々に残す特攻隊員もいました。本展では、各地から遺墨が3点集まりますが、初めて展示公開される資料もあります。

これらの遺墨からは、彼らの死に対する想いがうかがい知れる一方、当時滞在していた松本の地や身近な人々への気持も伝わってきます。例えば、武揚隊隊長の山本中尉は「いざ行かん　浅間の梅を　えびらさし　わたつみ遥か　香とじめん」と残しています(註)(写真1)。

特攻隊が編成されるよりも以前に、太平洋戦争に突入していた日本は、昭和18年末から学童疎開を急ピッチで進めます。これは、米軍の空襲から子どもたちを守るための国策でした。『松本市史』によると、長野県と新潟県では世田谷区内の国民学校34校から約8,300人もの疎開学童を受け入れることが指定され、長野県内では23校の学童を受け入れていたということです。



(写真1)田澤澄枝氏蔵

寺院や旅館に滞在していた子どもたちは、それぞれ割り当てられた市内の学校に通っていました。異郷の地、寒い松本で暮らさなければならなかった彼らの日常がわかる記録があります。ひとつは、開智国民学校で授業を受けていた奥沢(おくさわ)国民学校の学童が残した作文集です。敗戦への反応も表現されているため、戦後すぐには世田谷に戻れなかった時期に書かれたものだと思われます。もうひとつは、東京に残った両親へ代沢(だいざわ)国民学校の児童が浅間温泉から出した葉書の束です(写真2)。健気(けなげ)にふるまおうとする、両親への思いやりが紙面から感じられます。

これらの特攻隊員の遺墨や子どもたちの作文・手紙からは、戦時下の人の流れが見えてきます。特に、浅間温泉に滞在した特攻隊員と疎開学童による短期間の交流は、調査研究者をはじめ、疎開学童だった皆さん、資料所蔵者の皆さんの協力により、松本で初めて紹介されるエピソードです。

(写真2)矢沢克己氏蔵

この夏、これらの人々の戦争体験を紹介する本展が「戦争と平和」を問う機会となり、過去に松本を訪れた人々が単なる「過去の人」とならないよう語り継がれていく一助となるように努めたいと思います。

(松本市立博物館／秋山かおり)

(註)「えびら(箙)」とは腰につけて矢を入れる武具。また「箙の梅」という季語は、1184年の源平合戦で梶原景季(かじわらのかげすえ)が梅の枝を箙にさして戦った故事に基づいている。

企画展
「戦争と平和－松本に来た特攻隊－」

平成24年8月4日㊏～31日㊎

松本まるごと博物館 連携事業

松本の七夕2012

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

企画展「松本の七夕2012」

会　期　7月7日(土)～9月2日(日)
会　場　松本市立博物館2階特別展示室
観覧料　松本城共通券
（大人600円、小・中学生300円）

重要文化財馬場家住宅から ☎0263-85-5070

企画展「古民家で楽しむ七夕さま」

会　期　7月7日(土)～8月19日(日)
会　場　重要文化財馬場家住宅 主屋
観覧料　通常観覧料
（大人300円、中学生以下無料）

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

企画展「星に願いを」

会　期　7月7日(土)～9月2日(日)
会　場　窪田空穂記念館 2階ギャラリー
観覧料　通常観覧料
（大人300円、中学生以下無料）

はかり資料館から ☎0263-36-1191

企画展「中町を飾る七夕人形」

会　期　7月7日(土)～8月19日(日)
会　場　はかり資料館
観覧料　通常観覧料
（大人200円、中学生以下無料）

戦争と平和展

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

企画展「戦争と平和 ―松本に来た特攻隊―」

会　期　8月4日(土)～8月26日(日)
会　場　松本市立博物館
1階常設展示室特設コーナー
観覧料　松本城共通券
（大人600円、小・中学生300円）

松本市歴史の里から ☎0263-47-4515

特別展「写真で見る巣鴨プリズンⅡ」

会　期　8月4日(土)～8月31日(金)
会　場　旧松本少年刑務所独居舎房
観覧料　通常観覧料
（大人400円、中学生以下無料）

空港図書館から ☎0263-86-8460

企画展「記憶から消えた特攻隊と松本飛行場」

会　期　8月4日(土)～8月26日(日)
会　場　空港図書館 会議室

重要文化財旧開智学校校舎から ☎0263-32-5725

特別展「戦時下の子どもたち ―開智国民学校の資料を中心に―」

会　期　8月4日(土)～9月30日(日)
会　場　重要文化財旧開智学校校舎
1階特別展示室
観覧料　通常観覧料
（大人300円、小中学生150円）

「戦時下の子どもたち ―お話とコンサート―」

日　時　8月5日(日)
午後1時30分～3時30分
会　場　重要文化財旧開智学校校舎
1階特別展示室
内　容　紙芝居とコンサート
入場料　通常観覧料

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

特別展「戦争と歌人」

会　期　8月4日(土)～8月31日(金)
会　場　窪田空穂記念館 2階ギャラリー
観覧料　通常観覧料
（大人300円、中学生以下無料）

ガイドコーナー はんてんぼく

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第17回夏期教育セミナー

日　時　8月25日(土) 午後2時～4時30分
［基調講演］
市川昭午氏
（国立教育政策研究所名誉所員／
国立大学財務・経営センター名誉教授）
8月26日(日) 午前9時～午後3時
若手研究者による研究発表
会　場　あがたの森文化会館 講堂
※参加方法等の詳細は、旧制高等学校記念館へ

重要文化財馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日　時　［第4回］7月15日(日) 午前10時～正午
おしゃれ茶道の会（裏千家）
［第5回］8月26日(日) 午前10時～正午
松風の会（表千家）
会　場　馬場家住宅 主屋
参加料　通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）
申込み　不要

はた織り体験教室

日　時　7月28日(土)、8月25日(土)
［午前のクラス］10時～正午
［午後のクラス］1時～3時
会　場　馬場家住宅 門長屋
受講料　各講座1,000円
申込み　電話で馬場家住宅まで

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂生家将棋教室

日　時　7月21日(土)
［午前の部］10時～正午
［午後の部］1時～4時
対　象　［午前の部］小中学生
［午後の部］小中学生・一般
会　場　窪田空穂生家
講　師　石川陽生七段ほか、日本将棋連盟塩尻支部
受講料　無料
申込み　開催当日までに電話で

子ども短歌教室

日　時　7月26日(木) 午前10時10分～正午
対　象　小・中学生及び家族

短歌の教え方講座

日　時　7月26日(木) 午後1時30分～3時
対　象　教職員及び希望者
会　場　窪田空穂生家
講　師　小柳素子氏
受講料　無料
申込み　開催当日までに電話で

「松本の子どもの短歌・2012」短歌募集

募集期間　7月3日(火)～10月31日(水)
対　象　市内小中学校及び盲・ろう・養護学校
在学の児童・生徒
応募方法　規定の応募用紙に記入し、学校単
位で窪田空穂記念館まで提出
入賞発表　平成25年2月
作品展　平成25年3月
その他　応募者全員に作品集を差し上げます。

夏季講座「山に魅せられて50年」

日　時　8月11日(土)　午前10時～11時
会　場　窪田空穂生家
講　師　林宰男氏（写真家）
受講料　300円
定　員　30名
申込み　開催当日までに電話で

あとがき

学都松本を象徴する旧開智学校校舎には、多くの修学旅行の生徒さんが見学に訪れます。せっかく松本に来たのならば、「学ぶ」ことができる幸せを感じてもらえればいいのかな、と思いながら。(H.S)

あなたと博物館 No.181
発行年月日／平成24年7月1日　編集・発行／松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷　川越印刷株式会社